

## 沖縄のタクシー事情

荒井 正実

### 1. はじめに

沖縄県のタクシー事情は本土のそれとは大きく異なる。料金設定だけでなく、完全に地元民の足となっていることも特記すべき事象である。また本土ではほとんどみられなくなった「白タク」の存在も特徴のひとつとしてあげられる。

### 2. 先行研究

タクシーに関する先行研究はほとんどない。東京をフィールドとしたものなら、坂口・重信(1996)、重信(1990a・1990b・1999・2004)が挙げられる。

このうち、重信(1999)は日本(主に首都圏)におけるタクシーの歴史について書かれたものなので、沖縄のタクシーを知る際の先行知識として役立つだろう。

この他に東京交通新聞社から『ハイヤータクシー年鑑』が毎年刊行されている。これは、国内のタクシー乗務員の平均年齢や月収などから、各地の運輸局に登録されているタクシー会社及び登録車両台数まで記載されているので、統計的な資料を集める際には非常に役立つ。ただし、最新版となる2006年のものは完売となっているので取り寄せる場合は注意が必要である。

### 3. 沖縄のタクシー事情

沖縄のタクシーは本土のそれと比べ、運賃が格段に安い。小型タクシーなら初乗り1.8km・450円、以後401mごとに60円の値上げ(ただし23時から翌5時までは2割増)となっている(秋田市の場合は初乗り1.5kmで610円である)。

この運賃の安さは沖縄県民の平均所得の低さや、公共交通機関の問題などさまざまな要因が絡んでいると思われる。

沖縄には電車がなく、近年、ゆいレールといわれるモノレールが開通したが、那覇市内の主要地しか走っていない。またバスは交通事情などにより時刻表通りに来ないことが多い。そのため、那覇市民はちょっとした買物にもタクシーを利用する。

高校生が通学に利用するほどに市民の足となっているので常時相当な数のタクシーが街を走っている。

また、沖縄の人は「タクシー運転手はガラが悪い」「何にもできない奴がやる仕事」とよく言うが、筆者が実際に利用した範囲ではそこまで言うほど悪いものだとは感じなかった。おそらく、沖縄の人が頻繁にタクシーを利用するために乗務員との距離が近くなり、結果評価が辛口になるのではないだろうか。

沖縄のタクシーについてもうひとつ特記すべきことがある。それは「白タク」の存

在だ。「白タク」とは運輸局の許可を得ていないにも関わらず、タクシーと同様の行為を行うもののことだ。かつては本土でも多く見られたようだが、現在ではもうほとんど見ることはできない。

しかし、沖縄では公営住宅や霊園、国際通りなどいたるところにいる。概ね白くて古いバンで、メインの通りからは一本外れたところにいる。どことなく一般の車両とは雰囲気が異なるので、白タクを見たことのないものでもひと目でそれとわかるだろう。

白タクは違法行為であるが、運賃は非常に安いためか、皆かなり頻繁に利用しているようだ。本来なら声を大にして白タク撲滅を訴えるであろうタクシー乗務員も「ああ、軽貨物車ね」とあまり気にしていない様子だった。おそらく何らかの住み分けができているのだろう。



写真1 沖縄のタクシー 那覇空港にて



写真2 客待ち中の白タク 識名霊園にて

#### 参考文献

坂口順一・重信幸彦（1996）『タクシードライバーの言い分』J I C C 出版局

重信幸彦（1990a）「タクシーは接客業か」『タクシードライバーの言い分』J I C C 出版局

（1990b）「ナガシの論理・ムセンの論理」『タクシードライバーの言い分』J I C C 出版局

（1999）『タクシー／モダン東京民俗誌』日本エディタースクール出版部

（2004）『たったひとりのメディアが走った』現代書館

#### 参考ウェブサイト

「社団法人沖縄県ハイヤータクシー協会」<http://www.oki-taxi.or.jp/>